



ほつとするね  
緑の府中

# 指導室だより

第 77 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室  
〒183-8703 府中市宮西町2-24  
電話 042-335-4063



## II 教育随想 II

### 新年度にあたって

府中市教育委員会  
教育長 糸満 純一郎

#### ◆はじめに

日本の教育は、今大きな変革の時期を迎えています。国政においては、昨年民主党を中心とした新政権が発足し、教育行政について、新たな視点から見直しが行われています。

東京都教育委員会におきましても、小一問題・中一ギャップの予防、解決の取組み等、ここに来て次々と新しい施策を展開しています。折しも、現在は新学習指導要領の移行期にあり、市の教育委員会と致しながら、学校現場と連携を図りながら、遺漏の無いように手続きを進めているところではあります。

幸い本市には、教育振興基本計画としての「府中市学校教育プラン21」が策定されていますので、外部環境の変化を注視しながらも、いたずらに一喜一憂することなく、着実に計画に沿って教育行政を進めていきたいと考えております。

#### ◆具体的なプラン21の取組みについて

小・中一貫教育については、小・中学校の枠を超えて、情報交換や相互の授業参観など、実践に取り組んで参ります。

府中版コミュニティ・スクールについては、これまでの研究成果を基に、今年度は学校現場と十分協議し、来年度の一斉実施に向けて準備を進めます。

府中版セカンドスクールは、今年度第三小学校と第四小学校で試行的に実施し、来年度からは全小学校で実施したいと考えております。

学区の見直しについては、昨年度末にパブリックコメントを実施致しましたので、今後は学校現場や市民の皆様のご意見を十分に尊重しながら、より良い計画に仕上げて参ります。

学校施設の耐震化工事については、平成25年度までを計画期間としておりますが、本年度は

#### ◆今後の検討課題について

子どもたちの体力の向上については、総合的な対策が必要ですが、その一つとして、タグラグビーの普及に更に力を入れていきたいと思っております。

中学校4校、小学校6校、幼稚園1園の工事を実施します。

給食センターは、施設の老朽化が著しく、その対策が課題となっています。これまで内部プロジェクトで検討して来ましたが、本年度は、市民参加の検討協議会を立ち上げて、具体的な施設設備計画を策定して参ります。

環境教育については、昨年度に引き続き、ゴーヤの栽培や「環境チェックシート」に取り組みと共に、校庭の芝生化を進めて参ります。

余談になりますが、最近日本でも蜜蜂が次々と死滅していること、知人の養蜂家から聞きました。原因は不明とのことですが、環境の悪化が影響していると考えれば、蜜蜂だけの話では終わらない怖さがあります。

環境問題は、実際に身近で起きている事象を敏感に感じ、危機感を持って取り組むことが大切だと思います。

これらの課題は、今すぐに実施するというわけではありませんが、中長期的な視点に立って、検討をしてみる意義はあるのではないのでしょうか。

今年度も、どうぞよろしくお願いを申し上げます。



府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

地域と連携を図り

ICTを活用した授業の工夫

授業改善に役立つ

ICT活用法を地域と考える

府中市立府中第四中学校

校長 丹代 徹

1 研究主題設定の理由

本校では、平成18年度より「分かる授業を目指した教科指導の在り方」を校内研修のテーマとして取り組んできた。その過程において、生徒や保護者による学校評価（授業評価）を実施し、その結果を踏まえた授業改善に取り組むとともに、授業改善推進プランの一層の充実に役立ててきた。

また、地域には、ICT関連の企業があり、本校生徒の保護者の中にはそれらの企業に勤め研究などを行っている方も多く、ICTに関しては高い関心を持っている。これらを生かすことを考え、研究主題「地域と連携を図りICTを活用した授業の工夫」とし、研究副主題「授業改善に役立つICT活用法を地域と考える」を設定した。

2 研究計画

一年次は次の三つの研究目標を掲げ実施した。一つには、教員一人一人がICTを活用した授業について研修を行う、二つには、学校全体でICTの使用法について研修、三つには、教員一人一人がプレゼンテーションソフトの使い方などを研究し、新学習指導要領の改善点などについて発表する。

二年次では、前年度の研究成果と課題を踏まえて、全教員がICTを活用した研究授業を行い、発表するということをテーマに実施する。

また、保護者の方に高度なプレゼンテーションテクニックを使い職業講話をしていただいたり、各教科の授業用教材作成の相談や手伝いをしていただくなど地域との連携も図る。

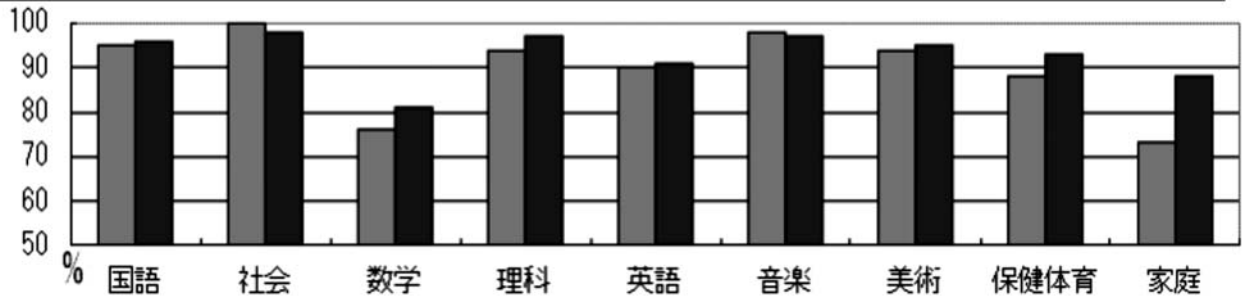
3 研究実践と成果

一年次ではICTに慣れるため全教員がプレゼンテーションソフトを活用し、新学習指導要領を解説することで、各教科の新旧学習指導要領の違いなどを教員間で共有できたこと、プレゼンテーションソフトの活用方法などを自分たちで研究することができたことはICTを活用した分かりやすい教材作成の大きなメリットとなった。

二年次では、全教員がICTを活用した研究授業を実施したことにより、ICT活用に関して意識改革が行われ、ほとんどの教員が授業中にICTを活用して指導する事が多くなり授業改善の効果は非常に大きかった。このICTを活用した授業によって、生徒の教科に対する興味・関心が高まり、理解度も高くなったことは生徒アンケートなどでも証明されている。

また、地域との連携においては地域との協同で授業ソフトをつくることができ、教員にとって技術的なサポートや新しい発想の導入などメリットが多かった。このことにより地域の方にとっても学校教育への参画意識が高まり、学校を理解してもらう手だてとなった。

■ 授業内容に興味・関心が高まった ■ 授業内容がわかりやすくなった



【ICT活用授業後のアンケートより】

4 研究の課題

- (1) 高度情報化社会へ対応できる力を育成するため、授業における生徒自身のICT活用場を多く設定するとともに、実生活や実社会へ主体的に活用する意識の向上。
- (2) 小学校と連携を図り、小学校でのICT活用の実態を調査した上で、さらにステップアップした能力育成。
- (3) ICT活用によって高まった興味・関心を、知識の定着へとつなげる工夫。
- (4) 地域の方と連携をするための十分な時間の確保や負担の軽減。
- (5) コンピュータやプロジェクト等のICT機器の環境整備及び普通教室でのセッティング時間の短縮。
- (6) 開発した教材ソフトの蓄積と共有化。





府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

生徒の主体的な学びを  
高めるための授業づくり

―地域の人材活用等を通して―

前府中市立府中第三中学校

研究主任 佐藤 秀一

1 研究主題と主題設定の理由

「学校評価アンケート」「学習状況調査」等の結果分析から、本校の生徒は、「学びの実践力（学びに向かう力など）、問題解決力」「地域や多くの人とのかわり」「学習意欲」「家庭学習の習慣」に課題があると捉えることができた。

このことから、本校の生徒は学習へ取り組む姿勢、学習習慣の確立、積極的に地域社会とかかわる態度を身に付ける必要があると考え、研究主題と副題を設定し、平成20・21年度の府中市教育委員会研究協力校としての研究を行った。

2 研究の内容と方法

(1) 授業改善の取組

生徒の授業評価アンケートの結果分析に基づき、学習意欲を高めるための授業改善を行った。各学期に実

研究発表会当日、ゲストティーチャーを  
招いた一年生「国語」の公開授業



年間7回の校内研修会と3回の研究授業を実施した。研究授業は、全教員が年間1回以上実施し、「学習指導案」と「授業観察視点シートI・II」の工夫も行った。研究協議会は、分科会と全体会の協議を行い、専門家からの指導助言を受けた。

(2) 地域の人材活用の取組  
各教科、領域の授業に保護者・地域の方々をゲストティーチャーとして招いた。授業づくりを工夫することで、学習意欲を高め、保護者・地域の方々との連携を深めた。

◎主なゲストティーチャー  
国語：百人一首協会などの方  
社会：府中市文化財振興課の方  
美術：府中市美術館の学芸員や彫刻作品制作者の方  
技術：大工職人の方  
家庭：栄養士の方  
道徳：レスキュー隊員の方  
特別活動：府中消防署員の方  
総合的な学習の時間：漫画家、弁護士、文化財造形保存技師、会社員、郷土の森博物館学芸員、化学者などの方  
通級指導学級の読み聞かせ  
： 地域の方  
ゲストティーチャーとの事前の連絡調整は研究部が行い、授業づくりは、担当教員が行った。

(3) 「学習マラソン」の取組

「学習マラソン」は家庭学習記録表である。「学習マラソン」の見直し・改善を図ることで、家庭学習及び基礎・基本の定着を目指した。

「学習マラソン」の基本的な考え方、到達目標時間、達成目標時間、時間数のカウント方法等て担任が中心となり、コメントを書くなどの日常の励ましをするとともに、「学年だより」に月ごとの累計時間を掲載し、家庭との連携も深めて、生徒の励みになるように取り組んだ。

3 研究発表会

一年生は各教科、二年生は総合的な学習の時間で公開授業を行った。授業改善の視点に基づき授業とゲストティーチャーを招いた授業も実施した。研究発表は、研究部担当教員による研究概要の発表をした。記念講演は、シドニー、アテネ、北京と3大会連続でパラリンピックの走り高跳び競技に出場した鈴木徹氏から「夢への挑戦」という題目で講演をいただいた。

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

第一に、授業改善、地域の人材活用、「学習マラソン」の取組で学習意欲の高まりを読み取ることができた。また、保護者・

地域の方々との連携をより一層深めることができた。

第二に、授業観察視点シート等の工夫により、教員の授業改善の視点を共有することができ、教員の授業改善への意識が高まった。

(2) 今後の課題

第一に、多面的な生徒理解に基づき、特別支援教育に基づいた授業改善をより一層推進する必要がある。また、より効果的な家庭学習の方法を指導する必要がある。

第二に、地域の人材活用は、校内組織担当者を明確にし、組織的に人材を確保し、活用する必要がある。



学習指導案と  
授業観察視点シートI

府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

読む・書く・思いえがく

～書くことを通して  
自分の思いを伝える力を育てる～

府中市立南白糸台小学校

研究主任 八鍬 恵子

1 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識や技能の習得と、その活用による思考力・判断力・表現力の育成」がねらいとされており、特に「言語活動の充実」が重視されている。この言語活動の充実のために、言語力育成の基盤となる国語科において、読み・書きなどの基本的な力を定着させること



三年生「構成」

が重要である。その上で、国語科で身に付けた力を各教科の特性に合わせて生かすことが言語活動の充実につながると考えた。これらを踏まえて、本校では国語科を中心として言語活動の充実を図っていくことが、上記のねらいに迫るための第一歩であると考へ、研究の方向性を決定した。

本校では「助け合う子ども」を重点目標とし、一昨年度まで「豊かなかわりの中であくましく生きる児童の育成」を目指して研究に取り組んできた。豊かなかわりをもつには、人も自分も大切にすることが必要である。そのためには、人や自分が何を感し、何を伝えたいのかを想像しながら、相手にしっかりと伝えていくことが重要である。

そこで、さらにコミュニケーションを深められるようにしたいと考へ、昨年度からはこれま



四年生「推こう」

で行ってきた「言葉を通して伝え合う」から発展させた、「書くことを通して伝え合う」ことができる児童の育成を目指すこととした。

2 研究の内容

(1) 意欲を高めるための手だてとして、活用の工夫、体験の工夫、体験活動や取材活動の工夫、交流の工夫を考へた。

活用の工夫では、書いたものを最終的に誰に読んでもらい、今後どのように活用するのか、また、相手意識や目的意識を明確にすることで、児童の意欲が高められるようにした。

次に、体験活動や取材活動の工夫では、体験や取材を多く取り入れることで、書くための材

料を増やすとともに、より具体的に実感に基づいた内容にした。そして、交流の工夫では、書いたものを互いに読み合い、良いところを見つけて伝える活動を取り入れることで、自信を高め、成就感をもてるようにした。(2) 内容を充実させるための手だてとして、指導計画の工夫を考へ、必要に応じて従来の指導計画の順序を入れ替えたり、新たな指導過程を加えたりした。

次に、読解の工夫では、教材文を的確に読み取ることが、自分で文章を書く際に生かされること考へ、読み取りの際に色別の線を引いたり、ワークシートを活用したりして主題や構成を意識させるようにした。

そして、推こうの工夫では、文章を書いた後に、個人または相互で、表記や内容について推こうし、よりよい文になるようにした。

(3) 技能を高めるための手だてとして、全校で共通した表記の約束・カード・スキルを作成し、日常的に活用することで、基礎的な技能の習得や定着を目指した。

3 研究の成果と課題

○ 「読む・書く・思いえがく」の密接なかわりを重視して指導した結果、自分の思いを

広げたり深めたりしながら、伝えたいことが書けるようになってきた。さらに、文章を通して友達の思いを理解する力も育ってきた。

○ 学習過程（課題設定・取材選材・構成・記述・推こう・交流）や各過程での有効な手だて（モデル文・色別カード・構成表など）を明確にし、発達段階に応じてどの学年でも取り入れたことにより、学校全体として共通の実践を積み重ねることができた。

● 国語科で学習した書くことの力を他教科の学習など様々な場で目的に応じて書く活動を取り入れて、言語活動の充実を図っていききたい。



六年生「日常の取り組み」  
—もくもくタイム—



特別支援相談室①「就学相談」

平成 21 年度の活動を振り返って

前就学相談員

廣澤 洪太

◆就学相談をしていて時々、不思議に思うことがある。あれ程全身にバリアを張り巡らし、周囲の言葉に敏感に反応して拒否的、攻撃的な態度に終始していたA君が手のひらを返したように穏やかに楽しそうに友達と談笑している。その様子を見ながら、本人を取り巻く環境の大切さを痛感する。

◆これまで、両親の励ましの言葉や専門家としての医師の意見など周囲の様々な支援にはおよそ心を開かなかった彼が、まるで以前からずっといたかのよう周囲にとけ込んで活動している姿は相談員にとっても嬉しい限りである。しかし同時にいったい何が本人の心の壁に触れたのだろうか、受け入れる学級の配慮があればこのことではあるのだが不思議に思ってしまう。そのことを知ることができれば就学相談の意味も役割も一層増して来るのだが。就学相談の奥の深さをのぞき見る思いである。

以下、今年度の活動を振り返りながら課題の幾つかについて触れてみる。

○保護者面接は信頼への第一歩

相談の第一歩としての面接相談は、その後の経過に大きな影響を与える。相談は共感的理解を基本とするが、受け止めるべき情報とお互いの距離の取り方にはとくに気を配っている。共感と同調は同義語ではない。一方に偏りすぎない、近づきすぎないその兼ね合いはかなりの熟練を必要としている。

また、内容的には保護者の思い、我が子への受容の度合いが大きなポイントとなってくる。我が子をどれだけ受け止めきれているかは今後の相談体制に大きな影響を与えることになる。

相談員としてその見極めが大切なところであり同時にその間合いの取り方については細心の

1 就学・転学相談受付件数 (平成21年 3月 9日現在)

	小	中	計
就学相談	82	50	132
転学相談	77	7	84
合計	159	57	216

2 就学相談結果 (平成21年 3月 9日現在)

就学先等	小学校	中学校	計
通常学級	28	5	33
情緒等通級学級	18	7	25
特別支援学級	11	27	38
知的特別支援学校	11	6	17
肢体不自由特別支援学校	5	0	5
盲・ろう特別支援学校	0	1	1
特別支援学校(視覚・聴覚通級)	0	0	0
就学猶予・免除	0	0	0
取り下げ・転出・その他	6	2	8
私立等	1	1	2
未定	2	1	3
計	82	50	132

注意を払うようにしている。面接を通して得る様々な情報をしっかりと整理して多様な個々の相談に柔軟に対応していくことが信頼関係を築く第一歩となってくる。

○問診、発達検査、と教育の役割

それぞれ専門の立場からの意見を踏まえての判断が大切なこととは言ってもないが、診断名や検査の数値が一人歩きすることの無いように提起の仕方にも特に気を配っている。

診断はその子の全体像を特徴づけてくれる。検査の数値は言葉にならない本人の苦しさを代弁してくれる。そして教育は一人一人のニーズに応える場所と

○協議会の判断と保護者面接

判断と保護者の意見の違いが出てくる場合もある。その距離を縮めるのは論理の正当性以上に信頼感である。何よりも保護者は障害のある我が子だからこそ深い愛情をもちそれ故に先々への不安をかかえている。親、兄弟、親戚、地域への気配りと投げかけられる言葉に敏感に反応しながら今この相談にきてい

＝ 適応指導教室「けやき教室」 ＝  
**「21年度の活動を振り返って」**  
 けやき教室  
 指導員 若山 芳子

○ **けやき教室の運営**  
 適応指導教室「けやき教室」は、心理的な理由で「学校に行きたくても行けない」生徒に対して、学校とは異なった雰囲気の中で集団生活への適応を促し、学校復帰できるように支援することを目的に運営を行ってきた。

◆ 運営にあたっての配慮事項

- 1 個々の生徒の学力を伸ばし、自分に自信をもたせる指導
- 2 社会性・自主性を伸ばす教室運営
- 3 生徒の速やかな学校復帰を促すため常に学校と連絡を取る
- 4 安全な通室
- 5 保護者との連携を図る

○ **けやき教室の生活**  
 今年度は三学期に在籍の生徒数が30名を超えた。

基礎学力をつけ、少しでも自信をもたせ学校復帰を促すために、学習タイム4時間のうち3時間を教科学習に当ててきた。

昼休みや放課後の「けやきタイム」は、生徒たちの大好きな自由時間で、卓球(昼休みのみ)やトランプ、パズル、会話などして楽しく過ごしている。けやき教室ではこの自由時間が、生徒同士のコミュニケーションを図り、人間関係を確かなものにする大切な時間となっている。

○ **けやき教室の学習**  
 学習は、年間指導計画のもと教科学習、教科外活動(共同学習と呼んでいる)、スポーツ活動等を年間を通して行ってきた。

1 **教科学習**  
 教科学習は主に個別の自主学習が基本で、生徒は週の予定表をもとに自主的に計画をたて、学習を行ってきた。主として国語、数学、英語を熱心に学習した。指導員は質問に答えたりして学習の支援を行ってきた。

また、一斉授業の形態で国語(読み・書写)、社会(公民・地理)、美術、英語、家庭科、

総合的な学習等を行った。英語では、昨年度に続き外国人英語講師による英語の授業を2回行った。

〈理科〉

理科室で3回の実験を行った。顕微鏡での細胞の観察、ガスバーナーを使ってガラス管細工、保冷剤を使っただの電池づくりを行い充実した活動になった。

〈家庭科〉

食物領域と家庭生活領域を行った。調理実習は、学期毎に親子丼、スパゲッティ、ハワイトシチューなどの作り方を学んだ。保育実習を、みどり幼稚園で行い、自分の成長を振り返り、支えてくれた家族に感謝の心をもつことができた。

〈総合的な学習〉

多様な見方・考え方を身に付けるために家庭科、音楽、校外学習の活動等で行った。課題を解決しつつ、人や自然とのかわりを深めることができた。

2 **教科外学習**  
**「共同学習」**  
 教科外の学習を「共同学習」と名付け、けやき教室では重視している。集団で学び活動することの少なかつた生徒たちに、協力・共同の大切さと、活動を成し遂げたときの達成感・満足感を味わわせたいという願いか

らである。スポーツも含めて、毎日1、2時間設けている。

○ **パソコン学習**  
 一学期には「文書作成」を学んだ。文字入力や学習をした後、自分の好きな詩を選び、その詩に合う写真や絵を取り込んで作品に仕上げた。二学期には、インターネットを使ったり自分で絵を描いたりして美しく、見やすいカレンダーを作成した。

○ **菜園**  
 畑の畝作りから始め、トマト・キュウリ・ナスなどの夏野菜を育てた。秋には、白菜・ほうれん草などの種を蒔いた。天候にも恵まれ、収穫の楽しみを味わうことができた。

○ **道徳**  
 道徳の資料等を使って学んだり、視覚障害者の方から話を聞いたりして、人として身に付けておくべき事柄を学習した。学習後の感想では、自分の生き方について考えたり、人のために役立つ行動をしようとするなどの記述がみられた。

3 **スポーツ活動**  
 スポーツは週1回卓球、屋外でバドミントンなどの軽スポーツを行ってきた。年2回生涯学

習センターで、市の指導員からボール運動等を教えていただき、みんな試合に熱中した。



多摩川での校外学習

4 **校外学習**  
 「浅間山」や「多摩川」への校外活動の前に、地図の見方や府中市の歴史や自然・地形について学んだ。「ムサシノキスゲ」の咲く中や多摩川の風に吹かれながら互いのつながりを深めた。

一年間多くの学習や体験活動を行い、生徒たちは自己理解を深め達成感を感じ、自信を取り戻し学校復帰に向け大きく成長しつつある一年だった。



# 平成22年度 府中市教育委員会の教育目標

府中市教育委員会は、人間尊重の精神を基調とし、家庭・学校・地域社会の緊密な連携のもとに、子どもたちの安全を確保し、生涯にわたって心身ともに健康で、知性と感性に富み、誇りをもてるふるさと府中を創り、世界に活躍する府中っ子を育てる教育を推進する。

また、府中市の歴史・文化・伝統を学び、継承・発展させるとともに、生涯にわたって主体的な学びの機会を保障して、その学習の成果が適切に評価される生涯学習社会の実現を目指す。

そのために、学校教育と生涯学習の強力な連携を図り、府中市の教育ビジョンである、「府中市学校教育プラン21」及び「第2次府中市生涯学習推進計画」等を推進する。

◆府中市教育委員会の基本方針  
府中市教育委員会は、「教育目標」を実現するため、次の「基本方針」に基づき、総合的に教育施策を推進する。

## 基本方針 1 人権尊重の教育の推進

すべての子どもや大人が、人権尊重の理念を正しく理解するとともに、教育活動全体を通して、あらゆる偏見や差別をなくし、一人一人がかけがえない人間として尊重されるよう人権尊重の教育を推進する。

- (1) 人権尊重の理念のもとに、すべての市民が学校教育や社会教育などを通じて、様々な人権課題への理解と認識を深め、差別意識の解消を図るための教育を推進する。
- (2) 社会生活の基本的なルールを身に付け、法及び社会のルールを遵守することで、思いやりの心や他者の人権を尊重する態度を育てる教育を推進する。
- (3) 相互に支え合う社会の実現を目指し、高齢者や障害のある人などへの理解を深めて、連帯感をなくむための教育を推進する。
- (4) すべての教育活動を通じて「命の大切さと思いやり」や「自由と規律」など、豊かな人間性を培う道徳教育の一層の充

## 基本方針 2 豊かな個性と創造力を伸ばす教育の推進

社会の変化に主体的に対応して成長できるような、基礎的・基本的な学力の定着と自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質・能力の育成を重視して、個性を生かし創造力を伸ばし、自己の確立を目指す教育を推進する。

- (1) 個性を重視した多様な特色ある教育を推進するため、各学校が創意ある教育課程を編成し、組織的・計画的に教育活動を進めるとともに、特色ある学校づくりに努める。
- (2) 知的活動やコミュニケーション、感情、情緒の基盤である言語の果たす役割を重視し、各教科等の指導において言語活動の充実を努める。
- (3) 基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るために「授業改善推進プラン」に基づく「確かな学力」向上のために指導方法を工夫するとともに、児童・生徒の特性や進路希望の多様化などに対応するため、ティームティーチングや少人数指導を拡充するとともに、理科教育の充実を図るなど、個に応じた教育を推進する。
- (4) 体験的な学習や問題解決的な学習を重視するなど、教育内容や方法の改善に努め、一人一人の個性や能力を生かして自己の確立を目指す指導の充実に努める。
- (5) 教科横断的な指導の工夫や体験的な活動の充実により、望ましい勤労観・職業観をなくくみ、児童・生徒が自己理解を深め、将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する能力や態度を育成するなどのキャリア教育を推進する。
- (6) 障害のある幼児・児童・生徒が、そ

の能力・特性などを十分に伸ばして成長・発達していくために、教育相談を充実させるとともに、個々の教育ニーズに応じた指導が受けられるよう、特別支援教育の充実を努める。

(7) 郷土の歴史や文化を学び、我が国や郷土に対する愛着や誇りをなくくむとともに、世界の人々と文化にふれる機会の充実に努める。

(8) 豊かな想像力、創作力をなくくむための情操教育の充実に努める。

(9) 児童・生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するとともに、学習に対する興味・関心を高め、理解を深めるためにICT(情報通信技術)を活用した授業改善を推進し、情報教育の充実に努める。

(10) 小学校からの外国語(英語)活動、5・6年生を対象に実施し、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努める。

(11) 幼稚園、小学校及び中学校の連携を図った教育の充実に努める。

## 基本方針 3 健全育成の推進と社会貢献の精神の育成

家庭・学校・地域社会の緊密な連携のもとに、子どもたちの心身の調和的発達を促すとともに、社会の一員としての自覚を高め、社会に貢献しようとする精神の育成を図る。

- (1) 権利と義務を重んじ、思いやりの心や規範意識が実際の行動につながるよう、問題行動を防止し犯罪から身を守る教育(セーフティ教室)などを充実させるとともに、家庭や地域社会と連携して、社会体験、ボランティア活動、自然体験や交流活動などを積極的に推進する。
- (2) 人権尊重の精神を基盤に、個々の発達段階や特性などに配慮しながら、性に対する意識・心情・態度の育成に努める。また、薬物乱用防止に対する関心を高め、理解を深めさせるとともに、的確に対応できる実践力を身に付けさせる。
- (3) いじめ、不登校など、幼児・児童・

生徒の多様な生活指導上の課題に対応し、互いに認め合い、共に学び合う学校づくりを進めるため、関係機関との連携を図るとともに、学校における教育相談機能の充実及び教育相談室の整備・充実に努める。

(4) 生涯にわたって健康な生活が送れるように、学校と家庭及び地域社会の連携のもとに、食育の充実を図ることで、心と体の健康づくりを推進する。

(5) 基本的な生活習慣の確立、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康の保持増進等の取組みにより、子どもたちの体力・運動能力の向上を図る。

(6) 災害などに対して、家庭・学校・地域社会との連携の在り方を明確にした防災・防犯体制や危機管理体制の確立を図り、「子ども安全ボランティア」や「地域安全協議会」などを活用して、幼児・児童・生徒の安全確保に努める。

(7) 小学校と中学校の生活指導について、校内の組織的な対応を工夫するとともに、小中連絡協議会等を通じて連携を図る。

(8) 地球温暖化をはじめとする様々な環境問題に関心をもち、自ら解決に向けた具体的な行動をとることのできる力を育てるために、環境教育の充実を図る。

## 基本方針 4 市民の教育参加と学校経営の改革の推進

時代の要請や市民の期待に応える教育を充実し、家庭・学校・地域社会との協働とすべての市民の教育参加を進めていくために、市民感覚と地域の特性を重視した教育行政を展開し、地域のコミュニティの核としての学校づくりを推進する。

- (1) 地域の意見を取り入れた学校運営を目指すための学校運営連絡協議会を、府中版コミュニティースクールと位置づけ、保護者や市民の参画による開かれた学校づくりを一層推進する。
- (2) 学校教育の改善を図り、学校の自主性・自律性の確立と校長のリーダーシップの発揮を支援するため、学校経営計画に基づく教育活動の取組みや成果などを評価・検証する体制づくりを推進する。

## 基本方針 5 多様な学習機会を提供する生涯学習の拡充

いつでも、どこでも、だれでもが生涯にわたって学習・文化・芸術、スポーツ・レクリエーション活動に気軽に参加でき、より豊かで主体的な学習活動が展開できるよう、学習活動の場、多様な学習機会と情報提供の充実を図る。

- (1) 市民がそれぞれのライフステージに合わせて自主的な学習、文化・芸術、スポーツ・レクリエーション活動がしやすい環境づくりを推進するとともに、生涯学習情報提供の充実を図る。
- (2) 生涯学習、社会教育・公民館講座、セミナーの充実を図るとともに、市民の自主的な学習活動の成果の発表の場として、生涯学習フェスティバル、芸術文化祭などの事業を拡充する。
- (3) 多くの市民が積極的にスポーツ活動に参加し、豊かなスポーツライフを営むことができるよう、スポーツやレクリエーション事業の充実を図るとともに、市民の自主的な活動を支援する。
- (4) 古代に武蔵国の国府所在地だった府中市の、その長い歴史の中で培われてきた有形・無形の文化財を保存、活用して未来に継承することにより、ふるさと府中の意識の醸成を図る。
- (5) 優れた芸術に親しむことのできる美術鑑賞の機会の充実に努めるとともに、美術の学習、創作及び発表を支援する教育普及事業の拡充を図る。

(6) 生涯学習を支える地域の情報拠点として、市民の生活課題解決に役立つ図書館機能の充実を図るとともに、地域・家庭・学校と連携しながら、子どもの読書活動を推進する。

総合的な地域教育力の向上と「学び返し」の推進  
生涯学習活動で培った能力や様々な分野における専門的な知識・技能をもった人材の活用を図るため、ジュニア・ミドル・シニア世代を相互につなぐ学習機会を拡大し、「学び返し」を進める人材の発掘・養成により、地域で生かせるようにする。

- (1) 子どもたちの健やかな成長をはぐくむために、家庭教育支援事業を推進する。
- (2) 青少年が自主的に活動し、社会参加できる環境づくりを推進する。
- (3) 生涯学習施設・機関、大学、各種学校、及びNPO・ボランティアなど、地域の学習資源を生かしながら、市文化施設や各大学の連携講座などを実施し、生涯学習ネットワークづくりを推進する。
- (4) 市民の学習内容を求めに応じた講師・指導者の派遣を行うために、生涯学習サポーターや地域の担い手(ファシリテーター)など、すぐれた人材の発掘や育成を行うとともに、人材活用システムの整備・充実を図る。
- (5) 学習の成果を生かす市民活動を促進するため、生涯学習ボランティア養成講座の充実とともに、生涯学習フェスティバルなどでの実行委員会開催や体験活動、生涯学習ボランティア企画講座、市民企画講座など、市民との協働の場の整備を図る。
- (6) 市民の自主的な学習、文化・芸術スポーツ・レクリエーション活動を支援し、コミュニティの輪を広げ、地域社会の活性化を促進する。

4月研修会・委員会等予定	研修会・委員会等		会場		研修内容等	
	日	曜				
	12	月	特別支援学級代表者会	教育センター	一	全体会
	13	火	主幹教諭研修	教育センター	一	講義・演習
	14	水	理科指導支援員研修	教育センター	一	観察・実験実技講習会
	16	金	授業力アップ研修	教育センター	一	事業説明・研修会
	19	月	生活指導主任会	教育センター	一	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	20	火	新任・転任校長、副校長研修	教育センター	一	講話又は講義
	22	木	教務主任会	教育センター	一	全体会・分科会
	23	金	進路指導主任会	教育センター	一	全体会
	27	火	初任者等研修	教育センター	一	全体会
	27	火	食育推進委員会	教育センター	一	全体会、小・中分科会
	30	金	算数・数学指導員研修	教育センター	一	事業説明・研修会
	30	金	学びの扉実技研修	学校		実技研修会



「歩くこと」は、思考のアクセルとなる。このことは、古の哲人の姿からも見て取れる。「アテナイの学堂」という絵画には、歩きながら議論をするプラトンとアリストテレスが描かれているし、カントにとっては、午後1時の散歩が毎日の日課であった。おそらく、歩くことが思考にリズムを与え、机に向かっているときとは違う質の考えが得られるのだろう。運動不足の解消やダイエットを目的とした「ウォーキング」が注目されているが、考えを深めたり、新たなアイデアを見付けたりする機会として、歩くことを見直してみてもいいと思う。けれども、時間に追われているために、自動車や自転車などを利用することも多いのではないか。

### 「ウォーキング」ノススメ

恩田陸の『夜のピクニック』(新潮文庫)は、ある高校の全校生徒が、夜を徹して80kmの道のりを歩き通す「歩行祭」というイベントを題材とした物語である。その中に歩くことと時間との関係についての興味深い一節がある。「日常生活は、意外に細々としたスケジュールに区切られていて、雑念が入らないようになっていて。チャイムが鳴り、移動する。バスに乗り、降りる。歯を磨く。食事をする。どれも慣れてしまえば、深く考えることなく反射的にできる。むしろ、長時間連続して思考し続ける機会を、意識的に排除するようにしているのだろう。」忙しい毎日を送っていると、時間の単位(ユニット)は、どうしても小さくなる。そのような時間の流れの中では、ゆったりと考えることは難しい。だからこそ、敢えて「ちょっと長いかな」と思われる距離を歩いてみることで、逆に忙しさからしばし解放されるのではないか。「こんなふうに、高低差がなくて景色のよい場所をのんびり歩いているのは気持ちがいい。頭が空っぽになって、いろいろな記憶や感情が浮かんでくるのを繋ぎとめずほったらかしにしていくと、心が解放されてどこまでも拡散していくような気がする。」(前掲書)

春。コートを着なくても、気持ちよく歩ける季節となった。ウォーキングで、ゆったりとした時間の流れを取り戻してみたいかがだろうか。きっと、何かひらめきが、訪れると思う。

(指導主事 長井 満敏)

### 学びの窓

魅力的な企画展は府中市の特色 府中市美術館

教育普及担当主査 武居 利史  
美術館が行う最大の事業は、展覧会である。美術館は日頃から、作品の収集・保管、調査研究、教育普及など文化を継承するための地道な業務を行っている。だが、様々なテーマにもとづいて作品を集め、利用者の観覧に供する企画展は、もっとも華やかな事業として人々の関心を惹きつける。

5月9日まで開催中の「歌川国芳―奇と笑いの木版画」は、江戸時代後期に活躍した異色の浮世絵師を紹介した展覧会だ。斬新な視点と奇抜な構図で、猫や魚など動物を迫真的に描き、今日の私たちを驚かせるようなユニークな作品を創造している。近年内外での評価も高い。

そのうち、アメリカの大衆画家ノーマン・ロックウェルを紹介する海外展、夏休みは子ども向けの所蔵品展が続く。また秋には、開館10周年記念展「バルビゾンからの贈り物」、冬には現代展「アートサイト府中2010いきるちから」を予定している。企画力を活かした魅力的な展覧会の開催は、府中市の特色となっている。